

附 錄

學術談話會總會記事

大正四年二月二十七日午後一時より講堂に於て學術談話會總會を開く其「プログラム」は次の如し。

開會の辭

講 話

一 家事及裁縫科に於ける最近の進歩

技一、四 吉 田 さ く

我國に於ける圖畫教育の進歩

技二、四 吉 田 つ や

二 報告其一

文一、四 宮 崎 勝 技

報告其二

文二、四 窪 田 け い

三 最近に於ける物理の進歩

理一、四 福 島 ひ さ を

最近に於ける化學の進歩

理一、四 神 林 甫

四 裁縫科と他學科との連絡

養成所 西村なすの

會長の御話

以 上

注意 來學年の後半期内に第二回學術談話會總會を開

く、依て新に四年級となられたる諸子は、例により指導教官に就いて講演の準備をせられよ。學課の範圍は未定なれども、今年は恐く數學及び動植物なるべし。

大正三年に於ける文科に關する學術進歩の大勢

(第一回學術談話會席上報告「其一」)

文一、四 { 水 谷 年 惠
 { 水 倉 千 年
 { 富 崎 勝 枝

世 界は今舊文明より新文明に目覺めんとす。歐洲の戰亂は恰も曉の鐘の如く舊文明の暗の空氣を振はしつ々今や希望と歡喜の黎明に移らんとしつ々あり。

實に大正三年は外世界歴史上に未だ見ざる世界的變動の年なりき。内我が國民の思想及生活の上には黒雲掩へる諒闇の年なりき。而して實に國民的及世界的影響を最も顯著に且つ痛切に感觸せる年なりしなり。思ふに大正三年は世界及我國民生活の將來に於て一大回轉期として注目すべき深意を藏する時期たるべし。ここに大正三年に於ける我が文科に關する學術進歩の大勢を報告するにあたり、測らずもこの主要なる問題に逢著せるは最も光榮とする處なり。

大正三年に於ける我が國、思想、言語、文學に關する大勢

を回顧すれば、主として歐洲文明の移植にありき。而して實に科學の進歩は思想界の基礎を震撼し、真空放電、X線、ウラニウム、ラヂウムの如き放射可能體中に電子の存在を認めてより物質構造論に變革を起さんとし、又其の放射能の發見は古來の地球上の生物に關する科學的運命觀を一變せしめ、且つ生物學、心理學の研究は數百年來數學を應用して測定せる事實の外更に廣き經驗界の存在する事を知覺せしめんとしつゝあり。個性、生命、潜在意識に關する知識の明にせらるるに従つて、古來の理智に泥める哲學說の如き傾倒せずんば止まざるの概あり。此くの如くしてベルグメ、レラッセル、オイケン等起りて思想界を風靡せんとし、大正三年に於ける我思想界の分野には至る處、オイケン、ベルグソンの聲を聞かざるはなかりき。然れどもこれ客觀的唯物的思想プラグマチズム等の現在の思想に飽きたる思想界が主觀的唯心的思想を得てこれを歡迎したりしによるべし。思想の主たる流れは恰も現代獨逸哲學界に於けるが如くカントに出發し、カントの殘したる問題を、カント哲學の根本精神に従ひて解釋せんとする唯心論にして、我が哲學界の漠然たる要求に明確なる内面的の方向を與へたるものは少數の學者及哲學者なりき。この思想界の長き努力に刺撃せられ、次第に意識的に唯心論的傾向を有するに至れ

り。

更に轉じて言語文學の趨勢を見れば、金田一氏の「北蝦夷遺謠篇」の如き白鳥博士の「朝鮮語とウラル、アルタイク語との比較研究」、中目學士の「樺太諸民俗の言語について」の如き何れも國語の比較研究上重要な資料なり。又、言語研究として大部の百科辭典の續刊もしくは終結、勝屋氏の外來語辭典、黒田氏の美術辭典、新潮社の現代文藝辭典、地名辭典の如き特殊辭典の刊行せらるゝあり。又沼波氏の徒然草講話の如き古來註釋法の典型を脱して國語の研究の新方面を拓き、尾上先生の日本文學新史出て文學史研究に貢獻せらるゝ處あり。國語に關する叢書の發刊、帝國學士院の「假名遣ひ沿革史料類聚古集」の複寫の如き特記すべきものあり。この外國學院雜誌、藝文等に於ける特殊の研究に見るべきもの少なしとせず。又漢文に關しては竹添氏の左傳研究の如き、又藝文、東亞研究、東洋時報等に於ける服部、星野、内藤諸博士の支那文學、道德、制度等に關する研究、又後藤學士の文字に關する研究及びローマ字運動の如き愈々微を穿つの觀あり。特に國語教育の方面にありては、保科先生の講演及著述によりて活趣を帶び來り、頃日國語調査の議ありと聞くが如き眞に歡喜に堪へざるものあり。又漢字タイプライター及中根式速記術の發明の如きも亦看過すべから

ざるものゝ一つならん。かくの如く一見頗る慶すべきが如しと雖、大正三年に於ける言語文學に關して留意すべき問題は思想界に於けると同じく外國文學の移植にありき。

この事は獨り大正三年にのみ現れたる特異の現象にあらずして定見なき外國文學の翻譯翻譯案に關しては、明治以來引きつづき識者の憂慮する處なりしが、昨年に至りては廉價なるセリースの盛に行はれて外國文學思潮の普及を見んとし、我が國古文學にも口語譯の試みらるるあり、其の多くは梗概を叙述するに止り、ともすれば選擇及紹介の方法に於て不謹慎なるものなきにあらず。かくて歐米に於ても一部の社會にのみ賞翫せらるゝ作品の普遍的に紹介せられ、併せて外國文學思潮の評論盛んに行はるゝにつれて、絢爛目を眩する如きものありしと雖、もしそれ地味を異にし背景を別にせる我が國民思想の整調を害ふ如きものあらんか、國民性の陶冶訓練について寒心すべき事情なきにしもあらざるなり。

然るに大正三年の後半内に於ては政治上、經濟上、社會上特殊の事件の勃發するあり。外、歐洲戰亂の發生すると共にかねて、數年來歐洲思想、文藝に對する盲動、摸倣に對して甚だしく厭惡の情を抱ける一部の人士は、この機會に遭遇して一時に「思想の獨立」を唱へ、國民的自覺を催

起せんとするに至れり。かくの如きは近時起れる事件の勃發を待ちて始めて生ずべきにあらずして、實は早晚來るべき大勢なりしが如しと雖、突如として水の決するが如く蕩々汨々として思想界を撼かさずんば止まざるの概あるは竊に悦ぶ所なり。歐洲戰亂の終局は何の時か測りうべからずと雖、黃雲一度去りて平和の光の輝き始めんとする時、電光の如く人心を照すものは茫漠たる空想抽象的論議にあらずして、一層切實なる具象的なる國民的精神及國民的生活の自覺にあらん。我等は更に堅實なれ、本質的なれ、深邃なれ、創造的なれとの心の奥よりの叫聲を止めて遠く逝ける「大正三年」を送りて、思想文藝の分野に残せる餘韻に耳傾くれば、その反響の更に廣く更に大なれと思ふの情切なるものあり。

こゝに別冊調査報告(これを略す)を具して大正三年に於ける文科に關する事項の一部を報告す。思ふに大正四年は更に留意すべき幾多の問題を藏するに似たり。庶幾くば今後猶同學の諸氏と共に國民精神の去來に關して靜思冥想し、國民教育の任務を全うせんことを。